

茶郷川治水協議会会報

第26号

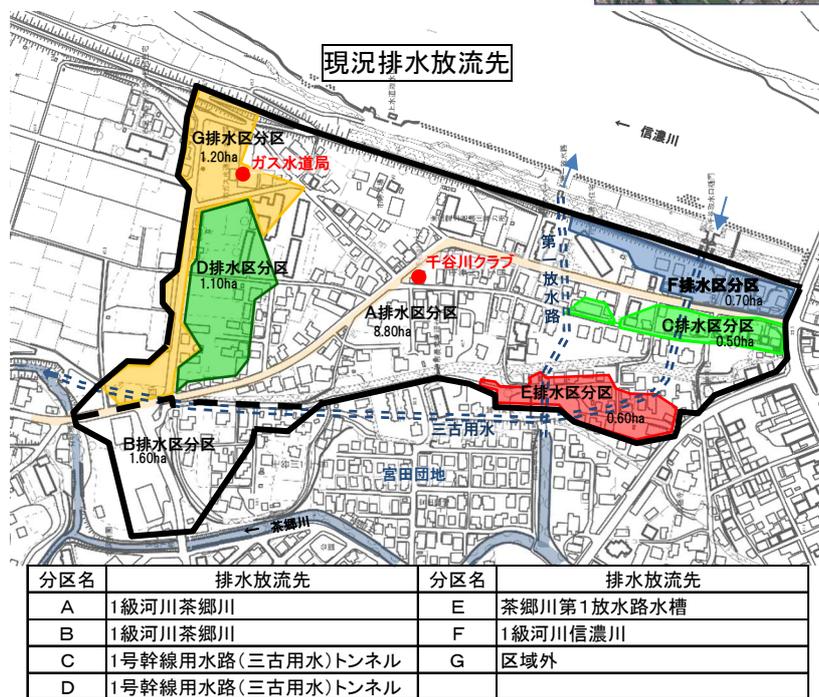
令和元年8月10日 発行
発行元 茶郷川治水協議会事務局
(小千谷市建設課)

○千谷川一丁目の内水対策について農水省（国）・県と協議しています

千谷川地内を取水先としている農水省所管の三古用水について、事業を担当する「農水省信濃川流域農業水利事務所」が、農業用水を安定供給するため、現在の第1トンネルを廃止し、別の位置に新たにトンネルを掘る事業を進めています。

千谷川一丁目地内では、三古用水の1号トンネルを排水先としている区域もあり、新潟県が進めている茶郷川の河川整備計画とも関連することから、今後の活用方法について、農水省、県、市の3者で話し合いを進めています。

千谷川一丁目周辺の河川などの状況



■千谷川一丁目の排水放流先を調査

千谷川の島田地区に茶郷川の放水路を整備した場合、千谷川一丁目地内がいわゆる「輪中（なべの底）」の形状になってしまい、「浸水の危険性が高まるのでは」とのご意見をいただきました。

市では、安全を確保するためにどのような対策を講じられるかについて検討するため、同地内を中心に約29haについて地盤高や排水の流れなどの詳細な現況調査を行いました。

調査結果は、平成28年3月、千谷川町内の皆様に説明を行いました。

左図はその調査結果を、排水先ごとに区分けした図です。

■排水対策の検討

同地区のような低い土地では、ほとんどの雨水が茶郷川を通じて信濃川に排水されていますが、信濃川の水位が地盤面より高くなると自然に流れ出すことは難しくなります。そのため県は、茶郷川の放水路の堤防を信濃川堤防の高さと同じとするいわゆる「バック堤」の対策で流出させることを考えています。

市としても、三古用水1号トンネルの活用など最適な排水先を検討するとともに、地域内の側溝もより安全性のレベルを高めた整備を検討し、茶郷川の放水路と一体となって地域の安全性を向上させていこうと考えています。